

将来、子どもを持つことについて 知りたい方とその家族へ

がん治療の前に知っておきたい
せいしょくきのうおんぞん にんようせいおんぞん
生殖機能温存・妊孕性温存治療のこと



がんと生殖医療ネットワーク OKAYAMA
岡山県不妊専門相談センター「不妊・不育とこころの相談室」
岡山大学病院リプロダクションセンター

第二刷

子どもを持つことをあきらめないといけませんか？

女性が妊娠するには、卵巣と子宮が重要な役割を果たします。また、男性が子どもを持つためには、精巣の中で作られる精子が必要です。

がんの治療である化学療法（抗がん剤治療）や放射線療法を行うと、これらの妊娠に必要な臓器がダメージを受け、機能が低下してしまう場合があります。

近年、がんの治療が進歩するとともに、がんを克服し、その後に子どもを持つことを希望する方々が増えています。このため、将来、ご自身の子どもを持つ可能性、すなわち生殖機能、あるいは妊娠できる可能性（妊娠性）を維持するための医療技術が注目されています。

がんと診断されたばかりの方やそのご家族は、きっとがんの治療のことでも頭がいっぱいになっていることかと思います。

でも少しだけ、時間をいただいて、将来、子どもを持つことについてお話ししたいと思います。

よくあるご質問



がんの治療中でも生殖機能温存・妊娠性温存治療を受けることは可能ですか？治療を受けるための年齢が決まっていたり、がんの場所、がんの進行状況が関係したりしますか？

がんの治療中でも、40歳以上でも、対象となることがあります。実際には、患者さんごとの卵巣や精巣の状態、がんの状態に応じて、生殖機能温存・妊娠性温存治療が可能かどうかは決まります。まずはご相談ください。



生殖機能温存・妊娠性温存治療ってどんなことをするのですか？

未受精卵子の凍結保存

未受精卵子の凍結保存とは？

何日か排卵誘発剤を注射して、卵巣を刺激した後、麻酔をして卵巣に針を刺して採卵します。採取した卵子をそのまま凍結し、保存する方法です。



受精卵（胚）の凍結保存

受精卵（胚）の凍結保存とは？

採取した卵子と男性パートナーから採取した精子を容器の中で一緒にして、受精させ（=体外受精）、数日間培養してできた胚を凍結し保存する方法です。



時間的な余裕がない女性や年少の女性の場合

卵巣組織の保存

卵巣組織の保存とは？

腹腔鏡下手術などにより、卵巣の一部を取り出し、凍結保存する方法です。



精子の凍結保存

精子の凍結保存とは？

射精などにより精液を採取し、精子をいくつかの容器に分けて凍結保存する方法です。顕微鏡で見ながら手術的に精巣から精子を取り出すこともあります（Oncot TESE）。



将来、子どもがほしいと思ったら、解凍（融解）して使用します。

せいしょくきのうおんぞん にんようせいおんぞん
生殖機能温存・妊孕性温存治療についてのQ&A

女性の場合①

未受精卵子の凍結保存



Q.どのような方が選ぶの？

A. 未婚の方、男性パートナーがない方。
時間的な余裕がある方。

Q.どのようなことをするの？

A. 連日、注射をして卵胞をたくさん作り（卵胞刺激）、採卵した卵子を凍結保存します。

Q.どのくらい日数が必要？

A. 卵胞刺激のために8～20日が必要です。

Q.将来、子どもを持つときにはすること？

A. 男性パートナーができたら、解凍（融解）した卵子に精子をかけて、体外受精をして、受精卵（胚）ができたら子宮に戻します。

Q.リスクはあるの？

A. 卵巣過剰刺激症候群（卵巣が腫れて腹水がたまる）、採卵に伴う出血や感染、麻酔などのリスクがあります。

Q.現在、どのくらい行われているの？

A. 技術的に確立してきており、実施例も増えています。

Q.どのくらい費用がかかるの？

A. 30～40万円
その後、年間数万円の保管料がかかります。

女性の場合③

卵巣組織の保存



Q.将来、子どもを持つときにはすること？

A. 原則として、手術で卵巣を体内へ移植します。

Q.リスクはあるの？

A. 手術に伴うリスクがあります。
卵巣の中にがん細胞が入っていると体内に戻すことができません。

Q.現在、どのくらい行われているの？

A. 新しい治療のため、現在のところ実施例は多くありません。

Q.どのくらい費用がかかるの？

A. 60～70万円
その後、年間数万円の保管料がかかります。

女性の場合②

受精卵（胚）の凍結保存



Q.どのような方が選ぶの？

A. 男性パートナーがいる方。
(原則として結婚されている方)
時間的な余裕がある方。

Q.どのようなことをするの？

A. 連日、注射をして卵胞をたくさん作り（卵胞刺激）、採卵した後に精子をかけて体外受精を行います。
受精卵（胚）を凍結保存します。

Q.どのくらい日数が必要？

A. 卵胞刺激のために8～20日が必要です。

Q.将来、子どもを持つときにはすること？

A. 解凍（融解）した受精卵（胚）を子宮に戻します。
ただし、将来、パートナーが代わった場合には使用できなくなります。

Q.リスクはあるの？

A. 卵巣過剰刺激症候群（卵巣が腫れて腹水がたまる）、採卵に伴う出血や感染、麻酔などのリスクがあります。

Q.現在、どのくらい行われているの？

A. 技術的に確立しており、実施例も多いです。

Q.どのくらい費用がかかるの？

A. 30～50万円
その後、年間数万円の保管料がかかります。

男性の場合

精子の凍結保存



Q.将来、子どもを持つときにはすること？

A. 凍結しておいた精子を用いて不妊治療を行います。

Q.リスクはあるの？

A. リスクはほとんどありません。

Q.現在、どのくらい行われているの？

A. 技術的に確立しており、実施例も多いです。

Q.どのくらい費用がかかるの？

A. 数万円
その後、年間1～2万円の保管料がかかります。

※射精ができない場合や、射精した精液中に精子が見られない場合には、顕微鏡で見ながら手術的に精巣から精子を取り出すことも行われています（Onco TESE）。

「将来、子どもを持つこと」についての話を聞くにはどうすればよいですか？

STEP
1

がんの診断を受けた病院で相談してみましょう

診断を受けた病院や治療を受ける病院の医師や看護スタッフに相談してみましょう。
その際、がんの状況や治療が将来の生殖機能や妊孕性に与える影響を聞いてみましょう。

STEP
2

生殖医療の病院を受診しましょう

がん治療を担当する医師と相談したうえで、紹介状を書いてもらい、生殖医療機関を受診しましょう。
あなたの生殖機能・妊孕性の状態や、具体的な妊孕性温存の方法を聞いてみましょう。

STEP
3

がん治療を担当する医療スタッフと生殖医療を担当する医療スタッフとともに、どうしたらよいか考える時間が必要です

生殖機能・妊孕性の温存を希望する場合

がん治療を担当する医師と生殖医療を行う医師とが連絡を取りながら生殖医療を行う病院で実施します。
実施後はもとの病院でがん治療を受けます。



生殖機能・妊孕性の温存を希望しない場合

もとの病院でがん治療を受けます。がんの治療中や治療後も、生殖医療を担当するスタッフや不妊専門相談センターのスタッフと何度も相談することができます。

公的な窓口でも説明を受けることができます

岡山県不妊専門相談センター「不妊・不育とこころの相談室」で、がん患者さんが子どもを持つことについての相談ができます。
(連絡先は裏表紙にあります。)

生殖医療のみではなく、養子縁組で子どもを持つことの相談もできます。

このような相談は、将来、子どもを持つことができるかどうかを知るためのみではなく、納得してがん治療を行うため、人生を送るための相談もあります。



まずは行ってみよう！知ってみよう！ がん患者の生殖機能温存・妊孕性温存マップ

がんと生殖医療ネットワーク OKAYAMA では、生殖機能温存・妊孕性温存治療の情報を提供や治療を実施している医療機関が一目でわかるマップを作成しました。ぜひ一度アクセスしてみてください。

アクセスは
こちらから

URL : <http://fertility.mapping.jp/>



PCや
スマートフォンから
ラクラク検索♪

他にも知っておいてほしいこと

- がんの治療が優先されます。
- 生殖機能温存・妊孕性温存治療を行う時には、がんの治療を担当している主治医の了承が必要です。ただし、相談は自由に行うことができます。
- 生殖機能・妊孕性温存治療の費用は自己負担で、保険適用はありません(自治体によっては助成制度があります)。
- がんの病状や精巢や卵巣の状況によっては、生殖機能・妊孕性温存治療を行うことができない場合があります。
- 生殖機能温存・妊孕性温存療法は、100%の妊娠・出産を約束するものではありません。
- 生殖機能温存・妊孕性温存治療以外にも養子縁組など、他にも子どもを持つ方法はあります。
それについても相談することが可能です。



生殖機能温存・妊孕性温存治療をする前に知ってほしい基礎知識

マンガ・リーフレットのご紹介

妊娠のしくみや人工授精、体外受精などの生殖医療の基礎知識について知りたい方や
確認したい方はマンガ「未来への選択肢」や各種のリーフレットをご覧ください。
(がんと生殖医療ネットワーク OKAYAMA ホームページからもダウンロードできます)。



ライフプランを考えるあなたへ
—まんがで読む—
「未来への選択肢」

知っておきたいシリーズ 1~4

「子どもがほしい」「もっと話を聞きたい」という場合は…

岡山県不妊専門相談センター 「不妊・不育とこころの相談室」

〒700-8558 岡山県岡山市北区鹿田町 2-5-1 岡山大学病院内

(開所時間) 月・水・金曜日 13:00~17:00 (祝日・年末年始はお休み)、

第1土・日曜日 10:00~13:00 (第1日曜日は事前予約の方のみ)

(オーブン日) 火曜日 12:00~17:00 / (お電話での予約・ご相談) 086-235-6542

(メールでの予約・ご相談) funin@okayama-u.ac.jp / (HP) <http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~funin/>



公共交通機関をご利用の場合

- 岡電バス 岡山駅後楽園口(東口)バスターミナル
・3番乗り場「22」「52」「62」
4番乗り場「12」系統で
約10分「大学病院入口」下車すぐ
- 4番乗り場「2H」系統で
約10分「大学病院」(病院構内)で下車
- 路面電車清輝橋行で終点「清輝橋」で下車後
徒歩で約8分

お車でお越しの場合

お車でお越しの際は、場内の案内表示に従い、患者様用駐車場をご利用ください。
駐車場スペースに限りがございますので、来院の際はできる限り公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。

「がん治療と妊娠性温存について知りたい」という場合は…

がんと生殖医療ネットワーク OKAYAMA

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/ofnet/>



「不妊症・不育症・生殖医療について知りたい」という場合は…

岡山大学病院リプロダクションセンター

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/repro/>



岡山県妊娠性温存環境整備研修事業

岡山大学 SDGs（持続可能な開発目標）推進事業



— 監修 —

岡山大学病院リプロダクションセンター

中塚幹也・酒本あい・櫻野千明